

コロナ第9波 どう備える

沖縄県に新型コロナウイルス感染拡大の「第9波」が到来し、今後全国への拡大が懸念されています。感染症法上の位置づけが5類へ引き下がれたもとの感染防止対策の現状と課題について、昭和大学の二木芳人客員教授に聞きました。（田中智江）

二木芳人（昭和大学客員教授）に聞く



感染拡大の傾向は今後、全国的な広がりを見せる可能性がありま。沖縄県を貢献でも、5類への移行で感染防

止対策への人々の意識にゆるみが出ていると見えます。ほかの地域でもマスクを外す比率は増えていますし、イベントなどもコロナ前のように感染防止対策が徹底されずに開催されています。そうした状況からもウイルスが広がる基本的なリスク

は高まっていると見えるべきです。ワクチン接種率においても、高齢者を中心に接種が行われていますが接種率は非常に低い。一般的な回目接種までは高い接種率ですが、4回目以降は下がっていきます。

免疫減ってくる

厚生労働省が5月に発表した献血血液使った抗体調査では、抗体保有割合が全国平均で45.9%割です。こうしたデータが、集団免疫ができたからもう大丈夫だという意識を助

長していくところがあると思います。

実は全国で沖縄県が群を抜いて63%と抗体

保有率が高い。素直に考えれば、沖縄は集團免疫ができる、もう感染拡大しないはずです

が、現実には今のように感染拡大が生じてしまっています。このこ

とはしっかり考えなければなりません。

オミクロン株による流行がら波、7波、8波と続いて起きました。これによって抗体

保有率が上がりまし

た、「9波」では、以前ほ

ど重症者がいる状況に

はならないかもしません。

しかし、比較的軽い症状の人たちが動

き回ることで感染が広

ります。そのためにはワクチン接種によって、免疫を補てんしていきことが必要です。

一方、後藤茂之経済再生担当相は今月、

「9波には入らす」と

の見方を示しました。

たしかに沖縄や一部の

地域をのぞけば、まだ

感染爆発が起きている

わけではないので、「9

波」という呼びかけを

そのままに置き換えて

きません。

その上で、感染拡大時

に医療提供体制はどう

いう状況になるのか、

きちんと見直すことが

求められます。

東京や大阪など大都

市でも懸念されている

「9波」では、以前ほ

ど重症者がいる状況に

はならないかもしません。

しかし、比較的

軽い症状の人たちが動

き回ることで感染が広

まる。今まで毎年夏に感染拡大が起きていたことは教訓となっています。

「9波」と呼びた

くなくても、せめて感

染が拡大抑制にあると

早めに国民に注意喚起

することが必要です。

都内ではいま、RS

ウイルスやヘルパンギ

ーナという子どもがか

かりやすい感染症の感

染拡大によって、小児

医療がひっ迫していま

すが、コロナも5類に

移行したからといっ

て、取り扱いが変わっ

ただけでウイルスは消

えていません。むしろ

「XBB」という変異ウ

イルスが発生するな

ど、より注意深く警戒



抗体獲得も感染拡大

がる」とは変わりが
りません。重症化り
スクの高い高齢者や基
礎疾患を持つ人たちに
感染を防げないことが
引き続き重要です。

注意深く警戒を